

■ 水質保全

ダム貯水池に貯められた水は、水道用水、農業用水として広く供給されていますが、特に飲料水としては、「安全性」や「おいしさ」など水質の良さが求められます。しかし、ダム貯水池にリンや窒素が流入して長時間滞留すると、貯水池に植物プランクトンなどが異常発生することで、かび臭アオコが発生し、浄水場から送水される水道水に悪臭を発生させるなどの悪影響を及ぼします。このため、広島県では水質や地域の状況に応じて、各種水質保全施設によるダム貯水池の水質改善に取り組んでいます。魚切ダムでは水質保全のため、次の水質保全対策を行っています。

■ 水質保全施設（ハード対策）

魚切ダムでは、平成4年度以降、「曝気循環装置」や「土壌浄化施設」による水質保全対策を行っています。

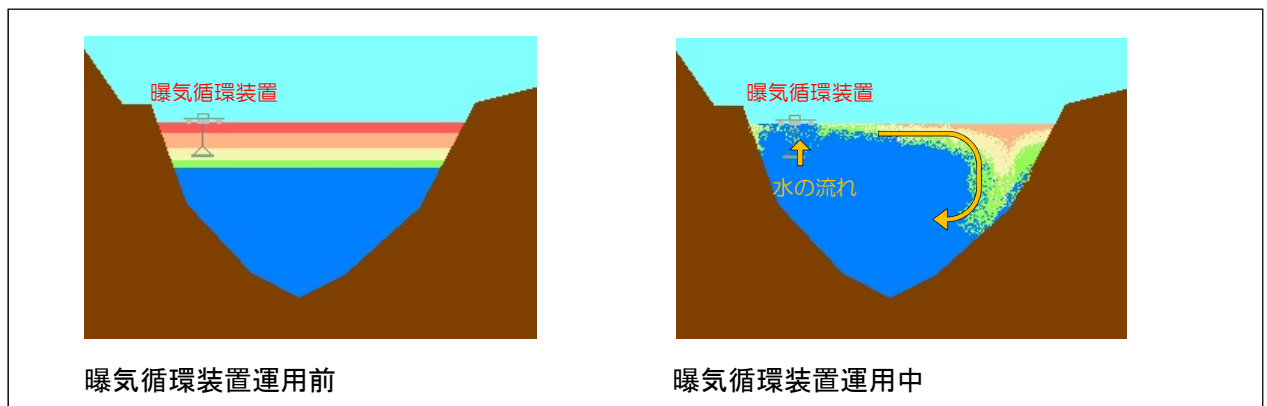


曝気循環装置

曝気循環装置

水深の大きいダム貯水池では、日照の届きにくい水深の深い層では年間を通じて水温が低い一方、夏の強い日差しのもとでは貯水池表面に高水温の層が形成されます。

このような環境は植物プランクトンの繁殖に好都合で爆発的に増殖する場合があります。これを防ぐため水温の低い水深の大きい層から空気を吹き出し上昇水流を起こすことでダム貯水池全体を循環する水の流れをつくり、表面の高水温層を攪拌します。



曝気循環装置運用イメージ



土壤浄化施設全景

土壤浄化施設

植物プランクトンの栄養源となるリンや窒素（市販の肥料の主成分でもあります）のダム貯水池流入を軽減することを目的とした施設です。

ダム貯水池上流に設置された13基の土壤浄化池は、砕石フィルタ層の上に多孔質の特殊土壤を50cm厚で敷き詰めた構造となっています。

貯水池への流入水を施設へ引込み土壤浄化池に浸透させることで、流入水に含まれるリンや窒素が特殊土壤に吸着されながら砕石フィルタ層に集められ、再び河川（貯水池）に戻されます。

■ 「魚切ダム貯水池水質保全対策協議会」（ソフト対策）

更なる水質保全の推進を目指し、流域の関係機関が一体となった「魚切ダム貯水池水質保全対策協議会」を設置し、以下の取り組みを行っています。

- ▶ 「魚切ダム貯水池水質改善計画」
- ▶ 「水質改善の啓発」
- ▶ 「作業グループの設置」